

暮らしを支える地域公益活動を紹介します。

キラリ★社会福祉法人

南あわじ市社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんネット南あわじ)

社会福祉法人間の交流から 地域のニーズに応えるネットワークへ

南あわじ市では、市内全11の社会福祉法人が連携し、平成26年9月に「ほっとかへんネット南あわじ」を設立した。各法人がつながり、制度の狭間にいる人や支援が届かない人に何ができるかを念頭に活動を進めている。今回は、取り組みの推進体制とともに、コロナ禍で生かされたネットワークに焦点を当てて紹介する。

手に取ってもらえるように！
とこだわったパンフレット



職員レベルの交流で、 法人全体の取り組み体制づくりへ

設立当初は、法人の代表者が集まる推進会議(代表者会議)を中心に活動を進めてきた。しかし、「法人全体で活動するには、実践の核となる職員の集まりも必要だ」という声が高まり、平成29年度に実務担当者会議が設置された。

実務担当者会議では、日頃から感じている地域の課題について、①災害時における仕組みづくり、②生活困窮者などへの相談と支援、③施設を活用した子どもなどへの支援、④広報活動と周知に整理し、4グループに分かれて活動を始めた。2カ月に1回の会議では各グループで協議を深め、企画内容を推進会議に報告しながら実践に移している。

企画されたプログラムには、担当者以外の職員も積極的に参加しており、例えば、特別養護老人ホームで開かれる子ども食堂では、その施設の介護職員のほかに、他法人の保育士なども参加する。所属する法人や職種の違いを越えて、地域に役立つ活動に一緒に取り組む貴重な機会となっている。



子ども食堂「ほっとねっと食堂」は、食後もゲームやおしゃべりで大盛り上がり

ボランティア「ぬうのとくえ 縫野得枝さん」のお手製マスクを、ほっとかへんネットが窓口になって配付

危機を乗り越え、好循環を生み出すネットワーク

今回のコロナ禍では、物資や情報不足などによって、各法人のサービス提供にもさまざまな困難が伴ったが、法人間のネットワークで危機を乗り越えた。下囲みはその一例である。

調整窓口

市内のボランティアが作成した布マスクを、ほっとかへんネットが調整窓口となり、不足が深刻な福祉施設・事業所に配布した。

新たなネットワークの創出

訪問介護を担う事業所で、社会福祉法人以外も含め新たなネットワークを立ち上げた。ほっとかへんネットのメンバー以外の事業所とも国の通知などの情報を共有し、市内をあげてコロナ対応に取り組んだ。

上記のほか、普段の対応として、災害に備蓄する食材の手配や、困窮した方に当面の生活物資を提供する準備にも取り組むなど、いつでも地域のニーズに対応できる体制の構築を進めている。

「このようなときだからこそ、職員は課題意識を持って社会福祉法人に何ができるかを考えている。単独では難しくても、複数の法人が力を合わせるからできることがある。新たに作成したパンフレットでネットワークの取り組みを周知しながら、今後もつながりを生かした活動を進めたい」と、ほっとかへんネット南あわじの代表で、(福)淡路島福祉会本部長の岡本和浩さんは、今後の展望を力強く語った。

ほっとかへんネット南あわじ

事務局：社会福祉法人南あわじ市社会福祉協議会

TEL：0794-44-3007